

工事の げんば 現場より

いま ようす
今はこんな様子だよ。



10月3週目

建物を頑丈にして地震に対して強くする＝耐震補強工事が順調に進んでいます。現代の建物の耐震補強であれば安全優先でデザインは二の次になりがちですが、文化財では見た目や取り付け方、素材なども吟味する必要があります。中には文化財を扱う職人だからこそその技能もあり。竣工後には隠れてしまう大工の見事な技、是非ご覧あれ。



がんじょう かべ
頑丈な壁
こうぞうようごうはん
(構造用合板)



たいしんへき う あ ふせ おもし
耐震壁の浮き上がりを防ぐ重石
てつこつ てつじん
(鉄骨+鉄筋コンクリート)



ゆかいた もと もど
床板を元に戻す
おもし ゆかした かく
(重石は床下に隠れる)



ごうはん
合板をひかりつけ
してる!!!



※ひかりつけ

木材を他のものに突き付ける際、光が通らないように相対するものの形状に合わせて加工する手法。自然石を礎石として用いたときなどに、石の自然な形状(凹凸)に合わせて木材(柱など)を削りこんで納める手法が有名。ここでは梁の木の自然な形や接合部の凹凸に合わせて、合板を削り形を合せている。



▲ 柱(束)と礎石(自然石)のひかりつけの例



▲ せこうまえ ようす
施工前の様子
(令和元年8月31日)

だいく わざ
これも大工の技!



がんじょう かべ
頑丈な壁
こうぞうようごうはん
(構造用合板)

たいしんへき せこう ようす
耐震壁施工の様子

かべ がんじょう
壁を頑丈なものにする工事は
ほとんどが内部で行われてるけど、
ここから見える外部の壁の一部も
施工済み。施工前後の違い、
わかるかな?

